



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.84
2017年 7月号

公益財団法人
School Aid Japan
〒144-0043
東京都大田区羽田 1-1-3
TEL: 03-5737-2773
FAX: 03-5737-2793
<http://www.schoolaidjapan.or.jp>
sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

レモングラス定植完了!!

皆さんこんにちは。カンボジアはいま雨期の真っ最中です。雨が多いことは作物の生育にとってうれしいことですが、ぬかるみの多い畑や水田を耕すときは一苦労です。多量の雨が降った後は、しばらくトラクターが入れず耕すことができない場所がいくつもできます。雨期の短い晴れの合間を縫って、トラクターや管理機を使い耕しています。今月は野菜、水稻の作付準備と講習会の様子を報告したいと思います。



講習会で契約農家さんの畑を除草している様子

◇契約農家講習会

今月の講習会は、契約農家のハイさんの畑で除草を行いました。レモングラスの苗は植えてから2か月ほどは小さく、ほかの雑草に負けてしまうため、畝間を除草し成長を助けてやります。鍬で畝と畝の間の土を耕し、レモングラスの株元に土を寄せていきます。土を耕すことで土の間に隙間ができ、土の間に根を張りやすくなります。また土を寄せることで雑草の上に土を被せ、雑草の生育を防ぎます。定植を終えてから2か月までが勝負になり、これを行うと行なわないのでは成育スピードに大きな差が出てしまいます。レモングラスの健やかな成長を望み除草を続ける日が続きます。



刈払い作業中のプロイ君

◇スタッフ機械作業

8月ツアーのお客様来場を控え、農場の整備を進めています。写真は現地スタッフのプロイ君が刈払機を使って除草をしている様子です。18歳以上の雇用契約を結んだスタッフに、スタッフリーダーのチャンダーさんから刈払機やトラクターなど機械の操作方法を教えてもらい、農場をくまなく除草、整備してもらっています。スタッフによっては飲み込みが早く、すでに日本人スタッフよりうまく刈払いできるスタッフもいます。スタッフが作業中にケガをしないように安全面に特に気を付けて作業を教えていきたいと思っています。



苗床となる水田に粃を播くスタッフ

◇粃播種

7月田植え用の苗を作るため苗床となる水田に粃を播きました。粃はジャスミンライスを使用しました。前日に粃を小袋に入れ、水瓶の中で水に浸します。翌日に粃殻を剥いて中まで水が浸透しているか確認します。胚が白くなっていれば準備OKです。水田の中で一番水のたまりやすい場所を選んで、紐でおよそ3aの長方形の囲いを作ります。その囲いの中に、粃が均等になるように手で播いていきます。今年は水稻を約1ha作付します。粃は1haあたり50kg必要になりますが、念のため70kgの粃を播きました。8月の終わり頃には田植えをしている姿が見られると思います。



ミニトマトを植えるテム君

ミニトマト、空芯菜作付

7月ミニトマト、空芯菜の作付を行いました。ミニトマトはカンボジアでも人気の野菜で、プノンペンの飲食店やスーパー等でよく見かけます。昨年度はたび重なる大雨によって根が腐ってしまい、またカイガラムシが発生してしまい、たった4kgしか出荷できませんでした。今年は去年の反省を生かし、耕運機で畝を立てて水はけをよくして定植しました。空芯菜はカンボジアではとてもポピュラーな野菜で、家庭ではよく食べられています。昨年は予想以上の収穫があり今年も作付けすることにしました。有機の美味しい野菜をカンボジアの家庭にたくさん提供できるように頑張りたいと思います。



堆肥を運搬用の樽に入れている様子

◇堆肥施肥

7月レモングラスや野菜、水稻の作付け準備として、堆肥を施肥しました。堆肥は養鶏農家さんから買った鶏糞と、プノンペンのコーヒー店から引き取ったコーヒー粕、蒸留後のレモングラス残渣、近隣農家さんから牛の餌となる草と交換でもらった牛糞を堆肥場にサンドイッチ状に積み重ね、3ヶ月以上発酵させて作ります。発酵のはじめの段階では堆肥の温度は60度以上になりますが1ヶ月ほどで徐々に40度前後まで下がります。そして3ヶ月以上たつと40度を下回り堆肥の完成になります。最初は鶏糞や牛糞の匂いが気になりますが、3ヶ月以上たつと堆肥からかすかに甘い匂いがしてきます。甘い匂いが堆肥からすれば良い堆肥の出来上がりです。